



PRESS RELEASE

令和 8 年 9 月 15 日

**メタバースで小児・AYA 患者さんに「行けなかった修学旅行」を届ける
— 京都・建仁寺の特別な許可を得て 法堂と双龍図をバーチャル空間に再現 —**

◆発表のポイント

- ・病室から京都・建仁寺へ: 長期の治療のために修学旅行などに参加できない小児・AYA 世代の患者さんが、アバターとなってメタバース上の建仁寺¹⁾「法堂（はっとう）」を訪れます。
- ・実測データに基づく再現: 建仁寺の特別な許可のもとで法堂の外観・内部を撮影し、天井画「双龍図」²⁾を含む空間を再現しました。
- ・患者さんだけの特別な体験: 本空間は一般には公開せず、全国 33 施設から参加する治療中の患者さんに限定して提供します。「行けなかった場所」を「自分たちだけが行ける場所」へと転換します。

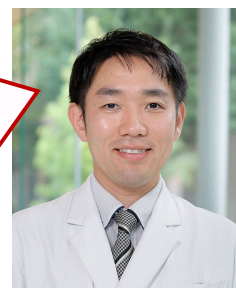
岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座の長谷井嬢教授（特任）（整形外科）は、臨済宗建仁寺派 大本山 建仁寺（京都市東山区）の協力を得て、メタバース上に建仁寺「法堂」を再現したバーチャル空間を開発しました。長期の治療により修学旅行などに参加できない小児・AYA（思春期・若年成人）世代の患者さんに向けて、「バーチャル修学旅行」として特別な体験を提供します。

修学旅行は、多くの子どもたちにとって学校生活の中でも特別な意味を持つ行事です。しかし、がんなどで長期入院や集中的な治療を続ける患者さんは、嚴重な感染管理や体力・免疫力の低下により、参加を断念せざるを得ないことが少なくありません。行事は学年に一度きりで、治療を終えてからやり直すことはできず、同世代との話題や思い出の共有からも遠ざかってしまいます。

今回、建仁寺の特別な許可のもとで法堂の外観と内部、天井に描かれた「双龍図」、加えて建仁寺で展示されている俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」³⁾の高精細複製作品などを撮影し、そのデータをもとにバーチャル空間を制作しました。岡山大学病院を含む全国 33 の病院および連携施設から患者さんが参加し、自分のペースで、また全国の仲間と一緒に堂内を見学することができます。さらに本空間は一般には公開せず、治療中の患者さんに限定して開放していただくことについて、建仁寺の承諾を得ています。「みんなが行った修学旅行に行けなかった」という体験を、「自分たちだけが訪れることのできる場所がある」という体験へと転換することを目指します。

◆研究者からのひとこと

修学旅行に行けなかった、という言葉、私たちは診療の場で何度も聞いてきました。治療そのものの苦しさとは別に、同世代と同じ時間を過ごせないことが、患者さんの心に長く残ります。私たちはこれまで、メタバースを通じて『一人ではない』と感じ合える居場所づくりを続けてきました。今回、京都最古の禅寺として知られる建仁寺様から、法堂の撮影と、患者さんに限ったのバーチャル公開という格別のご配慮をいただいたことに、心より感謝申し上げます。八百年以上の歴史を受け継ぐ建仁寺の文化空間を、病室にいる患者さんに開いてくださったことの意味は、とても大きいと感じています。この空間は誰でも入れる場所ではありません。治療をがんばっている患者さんだけが訪れることのできる、特別な場所です。『ここでしか行けない』特別な体験を届けられるよう、今後も取り組んでまいります。



長谷井教授（特任）



PRESS RELEASE

■発表内容

1. 背景：一度きりの行事と、これまでの支援の限界

小児・AYA 世代のがん治療は数か月から年単位に及ぶこともあり、化学療法や手術などの治療のため、修学旅行へ参加できない患者さんも多い現状があります。修学旅行は学年に一度きりであり、治療を終えてからやり直すことはできません。

参加できなかった子どもたちが病室で受け取るのは、友人が撮った写真と、楽しかったという話です。それは楽しい話であるほど、自分がその場にいなかったという事実を確かなものにします。

さらに、小児・AYA 世代のがんは希少がんであることが多く、同じ病院に同世代の患者さんがいるとは限りません。修学旅行が「誰かと一緒に行くから思い出になる」行事である以上、一人で映像を見ることでは代わりになりません。行き先を用意することだけではなく、一緒に行く仲間も大切です。

2. 発想の転換：闘病する仲間と、一緒に行く

本取り組みは、行けなかった行事の埋め合わせを目指すものではありません。治療を続ける患者さんに、その人たちだからこそ得られる特別な体験を届けることを目指しています。

当日は、全国 33 の病院および連携施設から患者さんが同じ時間に法堂へ集まります。それぞれの病室にしながら、同じ天井を見上げ、同じ場所を歩き、驚いたことをその場で言い合うことができます。全国に散らばっているために出会えなかった同世代の仲間と、一緒に修学旅行に行くことができます。

建仁寺からは、法堂の撮影に加え、制作した空間を一般には公開せず、治療中の患者さんに限り開放することについて承諾をいただきました。さらにこの空間では、通常の拝観とは異なる視点から堂内を鑑賞することができます。双龍図の真下に立ち、天井を真正面から見上げる。同じ日に建仁寺を訪れた修学旅行生にもできない見方が、病室から参加する患者さんにはできます。

3. 制作の内容：再現した対象

実際の法堂のデータを計測し、それをもとに、外観の裳階（もこし）の重なりから堂内の空間の広がりまでを再現しました。法堂の天井には、古くより龍が描かれず素木とされてきた中、創建 800 年を記念して 1 年 10 か月の歳月を経て 2002 年 4 月に完成した小泉淳作画伯の「双龍図」²⁾ があります。実際の拝観では、須弥壇や順路の制約から、図の中心部からは離れた位置より見上げるようになりますが、本空間では天井画の真下に立ち、阿吽の二頭を正面から見上げることができます。あわせて、俵屋宗達筆の国宝「風神雷神図屏風」³⁾ の高精細複製作品も撮影させていただき、こちらでも空間内で鑑賞することができます。

4. 開催予定

2026 年 11 月に第 1 回目を開催予定です。新規に参加を希望される医療施設も随時募集しており、柔軟に対応いたします。



【図 1 左：バーチャル建仁寺 法堂（CG モデル）、 右：撮影画像から生成した三次元モデル】

■社会的な意義

本取り組みは、闘病により学校行事から切り離されてしまう患者さんに対し、教育・文化の体験機会を届けるものです。歴史的・文化的空間をデジタル化する技術を患者支援に接続するこのモデルは、寺社をはじめとする文化施設が有する資産を、社会的な支援の場には開放する新しい形を示します。また、参加に地理的な制約がないため、居住地や入院先による体験機会の格差を生じさせません。病気とともにある子どもたちの「当たり前の思い出づくり」を社会全体で支える、持続可能な仕組みの一步となることを目指します。

■研究資金

本取り組みは、クラウドファンディング「入院中でも全国と繋がる！小児・AYA 世代がん患者さんのためのメタバース」資金、公益財団法人 日本生命財団 の支援を受けて実施しました。

■補足・用語説明

1) **建仁寺**：建仁寺は、建仁 2 年（1202 年）、将軍源頼家が寺域を寄進し、栄西禅師を開山として開創された、臨済宗建仁寺派の大本山です。京都最古の禅寺として知られ、室町幕府が定めた京都五山では第三位とされました。栄西禅師は永治元年（1141 年）、備中（現在の岡山県）の吉備津宮の社家に生まれ、二度宋に渡って臨済禅を学びました。今回再現した法堂は明和 2 年（1765 年）に上棟した、仏殿を兼ねる「拈華堂（ねんげどう）」です。

所在地：京都市東山区大和大路通四条下る小松町 584 <https://www.kenninji.jp/>

2) **双龍図**：「双龍図」は、建仁寺法堂の天井に描かれた小泉淳作画伯筆の水墨画です。縦 11.4m、横 15.7m、約 108 畳分の大きさがあり、阿吽の二頭の龍が描かれています。建仁寺創建 800 年を記念して、1 年 10 か月の歳月を経て平成 14 年（2002 年）4 月に完成しました。

3) **風神雷神図屏風**：俵屋宗達筆の国宝で、建仁寺が所蔵する二曲一双の屏風です。屏風全面に金箔を押し、右隻に風神、左隻に雷神が描かれています。原本は作品保護のため京都国立博物館に寄託されており、建仁寺では高精細複製作品が展示されています。今回撮影したのはこの複製作品で、実際に建仁寺を訪れた拝観者が目にするものと同じです。



＜お問い合わせ・参加希望施設からのご連絡＞

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）医療情報化診療支援技術開発講座
教授（特任） 長谷井 嬢
（電話番号）086-235-7273

※本件について建仁寺へのお問い合わせはお控えください



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

